

Brekeke PBX

Version 3

ユーザー・ガイド

Brekeke Software, Inc.

バージョン

Brekeke PBX Version 3 ユーザー・ガイド

著作権

本書の著作権は、Brekeke Software, Inc. にあります。

Copyright © 2015 Brekeke Software, Inc.

本書の一部または全部を、Brekeke Software, Inc. との書面による同意なしに、複写、複製、転載、多言語への翻訳、書き換え、あるいは、転送することは法律で禁じられています。

免責事項

Brekeke Software, Inc. は予告なしに本書の内容を変更する権利を有します。

Trademark Acknowledgement

- ◆ *Linux* は *Linus Torvalds* 氏の米国及びその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ◆ *Red Hat* は米国 *Red Hat, Inc.* の登録商標です。
- ◆ *Windows* は米国 *Microsoft Corporation* の米国及びその他の国における登録商標です。
- ◆ *Oracle* および *Java* は、*Oracle* およびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標です。
- ◆ その他製品名と会社名は、一般にその会社の登録商標です。

1.	BREKEKE PBX ADMINTOOL へログイン	5
2.	PBX の基本機能	5
2.1.	同じユーザーの端末間での通話	5
2.2.	内線番号間の通話.....	6
2.3.	通話の保留	6
2.3.1.	通話を保留にする	6
2.3.2.	保留を解除する	6
2.3.3.	保留中の通話を切断した場合のコールバック機能	6
2.4.	保留転送(Attended Transfer).....	6
2.5.	アンアテンデッド転送(Unattended Transfer)	7
2.5.1.	アンアテンデッド転送の実施	7
2.5.2.	アンアテンデッド転送が完了する前に元の通話に戻る方法	7
2.6.	留守番電話へのアクセスと設定	7
2.7.	コールピックアップ.....	8
2.7.1.	コールピックアップグループ内でのコールピックアップ	8
2.7.2.	コールピックアップグループ外からのコールピックアップ.....	8
2.8.	コールパーク.....	9
2.8.1.	コールをパークする	9
2.8.2.	パークされたコールのピックアップ	9
2.8.3.	パークされたコールの解除	9
2.9.	電話会議	10
2.9.1.	会議への参加	10
2.9.2.	会議の開催.....	10
2.9.3.	会話への参加	10
2.9.4.	既存の会議への招待	10
2.10.	通話内容のモニタリング	11
2.10.1.	通話のモニタリング例.....	11
2.10.2.	オートモニタリング	11

2.10.3. チューターモード	12
2.11. 通話録音	12
2.11.1. 通話中の録音	12
2.11.2. モニター中の通話(または会議内容)の録音	12
2.11.3. 発信時の録音オプション	12
2.11.4. 通話録音パターン	13
2.12. ミュート	13
2.12.1. 着信側のミュート	13
2.12.2. 発信側のミュート	13
2.13. 一斉放送(ブロードキャスト)	13
2.14. コンファームコール (Confirm Call)	14
2.14.1. コンファームコールへの応答	14
2.15. ページング (自動応答)	14
2.15.1. 自動ページング	14
2.16. ビジーランプフィールド (BLF)	15
2.17. プレゼンス (Presence)	15
2.18. シェアードコールアピアランス (Shared Call Appearance)	15
3. ユーザー設定	15
3.1. 設定	15
3.1.1. 通話設定	15
3.1.2. 留守番電話設定	16
3.1.3. 音声ファイル	17
3.1.4. 音声ファイルのフォーマット	18
3.2. 端末設定	18
3.3. 着信設定	18
3.3.1. プラン	18
3.3.2. プラン [n] > デフォルト転送スケジュール > 転送	19
3.3.3. プラン[n] > デフォルト転送スケジュール > オプション	20

3.3.4.	プラン[n] > 転送スケジュール[m] > 条件.....	21
3.3.5.	転送スケジュール [n] > 各ボタン	22
3.3.6.	Timer 1 / Timer 2	22
3.4.	留守番電話	22
3.5.	コールステータス.....	23
3.6.	コールログ	23
3.7.	ノート	24
3.8.	電話帳 (Brekeke PBX v3.8.x 以降).....	24
3.9.	アカウント	26
4.	クイックリファレンス.....	27
4.1.	発信時におけるコールタイプの指定	27
4.1.1.	発信時のプリフィックス	27
4.1.2.	コールの属性	27
4.2.	通話中のコマンド	27
4.3.	ビデオ会議中に使用するコマンド	28
4.4.	パラメーターと構文.....	28
4.4.1.	パラメーター	28
4.4.2.	構文	28

1. Brekeke PBX Admintool へログイン

Brekeke PBX Admintool を使用してユーザーの設定を行います。

- 1) Web ブラウザを使用して、Brekeke PBX Admintool ユーザーのログインページにアクセスします。アクセスに必要な URL は、システム管理者へ問い合わせてください。(URL の形式は通常、`http:// <Brekeke PBX サーバーの IP アドレス> : <port > / pbx` です。)
- 2) ログインページでは、ユーザ名、パスワード、テナント名(マルチテナント版のみ)を入力します。これらの情報につきましてはシステム管理者へ問い合わせてください。
ログインしたら、[アカウント]ページでログインパスワード及びその他の個人設定を変更することができます。各項目についての詳細な説明は「ユーザー設定」のセクションをご参照ください。
- 3) ログイン後は前回ログアウトした際に最後に開いたページが自動的に開きます。
- 4) 必要に応じて設定を変更することができます。各項目の詳細については、本書の「ユーザー設定」を参照してください。

2. PBX の基本機能

2.1. 同じユーザーの端末間での通話

[端末設定]画面の [端末 1] -[端末 4] において、各 Brekeke PBX ユーザ内線番号に対して最大 4 台の電話機を割り当てることができます。これらの電話機は、[端末]の 1~4 の番号でダイヤルしてお互いに電話をかけることができます。

例として、現在、Brekeke PBX ユーザー100 には、[端末設定]ページにおいて次の電話機が割り当てられています。Brekeke PBX user 100 has the following assigned phones at the [Phones] page:

ユーザー100 > [端末設定]

端末 1

端末 ID	100_phone1
-------	------------

端末 2

端末 ID	100_phone2
-------	------------

端末 3

端末 ID	100_phone3
-------	------------

端末 4

端末 ID	100_phone4
-------	------------

SIP ID が「100_phone1」の電話機は、2 をダイヤルすることで、端末 2 に割り当てられた電話機に電話をかけることができます。また、割り当てられた他の電話機は、1 をダイヤルして「100_phone1」に電話をかけることができます。

2.2. 内線番号間の通話

内線番号をダイヤルすると、内線番号間で電話をかけることができます。マルチテナント版の Brekeke PBX の場合、同じテナント内の内線番号のみが互いに呼び出すことができます。テナント間のコールは外部コールとみなされます。

ユーザー内線番号にダイヤルすると、その内線番号に割り当てられているすべての電話機が鳴ります。また、このユーザーの[他の転送先*]項目に設定されているクライアントも同時に呼び出し音が鳴ります。これらのユーザーのうち、1 人がコールに応答すると、他の電話機の呼び出しは停止します。[転送]> [呼び出し時間(秒)]で設定した時間内にクライアントからの応答がない場合、またはすべてのクライアントが話し中(ビジー)の場合は、それぞれ[転送先]> [転送先(話中)]/[転送先(不応答)]項目に設定された番号へコールが転送されます。

2.3. 通話の保留

2.3.1. 通話を保留にする

ほとんどの SIP 電話機では、[保留]ボタンを押すと保留になります。また、#9 をダイヤルすると、通話が保留されます。通話を保留にすると、安定したビープ音が鳴り、保留中の人は音楽を聞きます。

2.3.2. 保留を解除する

通話を再開する方法について、SIP 電話機の取扱説明書に従ってください。製造元によって通話を再開するための手順が異なる場合があります。#9 をダイヤルして通話を保留にした場合は、*(スター)を押して通話を再開します。

2.3.3. 保留中の通話を切断した場合のコールバック機能

保留された通話を誤って切断した場合、Brekeke PBX は通話を保留していた電話機を自動的に呼び出します。呼び出しに応答すると、保留中の相手との会話を再開します。応答せず、呼び出しがタイムアウトすると通話が切断されます。

- ✓ 電話機の「保留」ボタンが使用されている場合、機種によってはこのコールバック通知機能が利用できない場合があります。

2.4. 保留転送(Attended Transfer)

保留転送は、受信側に転送を通知した後に行われる転送です。たとえば、内線番号 1234 の同僚に転送する通話がある場合は、次の手順でキーパッドコマンド(#9)を使用して通話を転送します。

- ✓ 転送ボタンがある SIP 電話機を使用している場合は、システム管理者に保留転送機能の使用方法を問い

合わせてください。

- 1) #9 をダイヤルして通話を保留にします。
- 2) 転送先の番号をダイヤルし、次に#を押します。たとえば、内線番号 1234 に転送するには、1234#を押します。(* [スター]を押すと、元の電話に戻ることができます)。
- 3) 転送先の受信者にあなたが受信者に電話を転送していることを知らせてから、電話を切ってください。転送が完了し、転送された話者は転送先に接続されます。(受信者への転送中に電話を切る前に#9 をダイヤルすると、転送はキャンセルされ、コールは保留状態に戻ります)。

2.5. アンアテンデッド転送(Unattended Transfer)

2.5.1. アンアテンデッド転送の実施

アンアテンデッド転送(Unattended Transfer)は、通話を転送する前に受信側に通知することなく行われる転送と定義されます。例として、次の手順では、内線番号 1234 の同僚にコールを転送します。

✓ 転送ボタンがある SIP 電話機を使用している場合は、システム管理者にアンアテンデッド転送機能の使用方法を問い合わせてください。

- 1) #9 をダイヤルして通話を保留にします。(このモードで *「スター」を押すと、元の通話に戻ることができます)。
- 2) 転送先の受信者の番号をダイヤルし、次に#を押します。たとえば、内線番号 1234 にコールを転送するには、1234#をダイヤルします。
- 3) 転送先の相手が電話に出る前に電話を切断します。内線番号 1234 がコールに応答すると転送が完了します。

2.5.2. アンアテンデッド転送が完了する前に元の通話に戻る方法

転送先の受信者が電話に応答する前であれば、電話機から**(スターを 2 回)ダイヤルすることによって通話を保留にする前の状態に戻ることができます。

✓ 多くの SIP 電話機では、**(スターを 2 回)ダイヤルした後に[送信]ボタンを押す必要があります。

2.6. 留守番電話へのアクセスと設定

Brekeke PBX の留守番電話機能を使用するためには、まずシステム管理者から内線番号とパスワードを取得する必要があります。デフォルトでは、内線電話機から 8 をダイヤルするか、システム内の別の電話機から 08 * <内線番号>にダイヤルすると、留守番電話設定メニューにアクセスできます。この留守番電話機能にアクセスして、メッセージの取得や留守番電話機能の設定および個人設定を変更できます。

留守番電話に新しく保存されたメッセージを聞くには、留守番電話アクセス番号をダイヤルします。留守番電話に保存されたメッセージを聞いた後、メッセージを保存、消去、または他の内線番号に転送することができます。また、メッセージを聞きながら巻き戻したり転送したりすることもできます。これらのタスクの実行方法については、「ボイスメールナビゲーションマップ」(Voicemail Navigation Map)を参照してください。

Brekeke PBX Admintool のユーザー[設定]ページから、留守番電話の PIN 番号やその他の留守番電話設定を変更することができます。

2.7. コールピックアップ

コールピックアップ機能を使用すると、他のユーザ内線番号に着信したコールに応答できます。この機能の設定は、Brekeke PBX Admintool の[ユーザー]メニューから行います。この機能の設定方法については、このドキュメントの「ユーザー設定」を参照してください。

- ✓ コールピックアップボタンがある SIP 電話機を使用している場合は、コールピックアップ機能の使用方法について、システム管理者に問い合わせてください。

2.7.1. コールピックアップグループ内でのコールピックアップ

コールピックアップグループ内からのコールピックアップでは、グループ内線番号に着信したコールをすべてピックアップできます。Call pickup from within a call pickup group allows you to pick up any incoming call directed to a [Groups] extension.

- 1) ユーザーの[設定]ページ内の[通話設定] > [コールピックアップグループ]項目において、グループ内線番号を設定します。
- 2) グループ内線番号に含まれているユーザーの内線番号が鳴った際、グループ内の他のユーザーは*を押すことによりこのコールに応答できます。

2.7.2. コールピックアップグループ外からのコールピックアップ

グループ外の内線番号からコールピックアップを利用すれば、システム内の任意の内線番号に着信したコールをすべてピックアップできます。

- 1) 任意の内線番号から、* <ユーザ内線番号>をダイヤルして着信に応答します。
- 2) たとえば、ユーザー内線番号 511 が鳴る場合は、システムの他の内線番号から* 511 をダイヤルしてコールをピックアップします。

2.8. コールパーク

コールパークでは、指定した番号に通話を保留することができます。またこの通話は誰でも別の内線番号からピックアップすることができます。

- ✓ コールパークボタンがある SIP 電話機を使用している場合は、システム管理者にコールパーク機能の使用方法についてお尋ねください。

2.8.1. コールをパークする

- 1) #8 をダイヤルしてコールを保留にします。
- 2) パークする番号を入力した後、#を入力します。システムは入力された番号を音声として流してパーク番号を確認します。
- 3) これで、コールはパークされ、任意の内線番号からパーク番号をダイヤルすることにより、通話を再開することができます。

2.8.2. パークされたコールのピックアップ

パークされたコールをピックアップするには、いくつかの方法があります。

- ◆ コールをパークする際に設定した番号(パーク番号)にダイヤルします。
 - ◆ コールパークを行った内線番号から**をダイヤルします。
 - ◆ 任意のユーザ内線番号から 8 * <コールパークを行った内線番号>をダイヤルします。
 - ◆ コールパークを行ったリンググループ内の内線番号から 8 * <グループ番号>をダイヤルします。
 - ◆ パークされたコールをピックアップする内線番号に[コールピックアップグループ]が設定されている場合、8 *(スター)をダイヤルすると、その内線番号はコールピックアップグループ内の任意の内線番号からパークされたコールをピックアップできます。
 - ◆ 電話機がシェアードコールアピランス(SCA)機能をサポートしている場合、SIP 電話機のホールドボタンを押してコールをパークすることもできます。また、SCA 機能をサポートする別の電話機から共有ラインキーを押すことによりコールをピックアップできます。
- ✓ コールパークボタンがある SIP 電話機を使用している場合は、システム管理者にコールパーク機能の使用方法の説明を参照してください。

2.8.3. パークされたコールの解除

パーク中のコールを解除して再開するには、いくつかの方法があります。

- ◆ #8 をダイヤルして通話を保留にした場合は、*を押すと元の通話に戻ります。
- ◆ パーク番号を忘れてしまった場合は、パークした内線番号から**をダイヤルして、パークされたコールを再開することができます(パークされる前の状態に戻る)。
- ◆ パークされたコールは、パークしたユーザーの内線番号を利用して 8 * <パークしたユーザーの

内線番号>または 8 * <グループ内線番号>をダイヤルして取得できます。

- ◆ もしユーザーの[設定]画面内の[コールピックアップグループ]項目に内線番号またはグループ内線番号が設定されている場合は、8 *をダイヤルすることによりこの内線番号またはグループ内線番号内でパークされたコールをピックアップできます。
- ✓ 多くの SIP 電話機では、ダイヤルした後に[送信]ボタンを押す必要があります。

2.9. 電話会議

2.9.1. 会議への参加

システム管理者に会議番号を問い合わせてください。システム管理者が会議番号として内線番号 1000 を設定している場合は、1000 にダイヤルして通話に参加できます。

2.9.2. 会議の開催

会議をすぐに開催するには、2つの方法があります。

- ◆ 管理者が会議番号(1000)の[召集番号*]に会議メンバーの内線番号を設定した場合、任意のユーザーが会議室番号(1000)に発信することにより、設定された会議メンバーを一斉に呼び出すことができます。
- ◆ 会議番号(1000)に続いて出席者の内線番号を星印(*)で区切ってダイヤルすると、その会議メンバーを一斉に呼び出すことができます。
- ✓ [ユーザー]>[会議]>[会議設定] >[許可する番号*]に(*)アスタリスク、あるいは会議に参加できるメンバーを指定しておきます。(*)アスタリスクを指定した場合には、参加できるメンバーに制限はありません。

2.9.3. 会話への参加

会議ミーティングまたは 3 者通話に参加するには、0 * <内線番号>をダイヤルします。たとえば、ユーザー1001と1002が話している場合、別の内線番号から0 * 1001または0 * 1002のいずれかをダイヤルすると、その会話に参加することができます。

2.9.4. 既存の会議への招待

以下の手順で第三者を既存の会議に招待することができます。

- 1) #9をダイヤルして通話を一旦保留にし、新しいメンバーの番号をダイヤルします。新メンバーが電話に出るとこの新メンバーとのみ会話ができます。
 - 2) 次に#0をダイヤルして、新メンバーをあなたの会議に招待します。#0の代わりに#7をダイヤルすると、新しいメンバーは会話を聞くことができますが、話すことはできません。
- ✓ 会議ボタンがある SIP 電話機を使用している場合は、システム管理者に会議機能の使用方法について確認してください。

- ✓ 各ユーザーの[設定]画面内にある[他の通話への参加]と[他のユーザーから通話への参加]の項目は、会議通話の制限を設定したり、通話をモニターするために使用できます。
- ✓ テレビ会議通話中に使用できるコマンドについては、「クイックリファレンスチャート」を参照してください。

2.10. 通話内容のモニタリング

会話をモニターする場合は、次のいずれかのオプションを使用します。

- ◆ 9 * <内線番号>をダイヤルする。
 - ◆ 特定のユーザー内線番号を自動的にモニターするには、モニター対象ユーザの[設定]ページ[オートモニタリング*]フィールドにモニターするユーザーの内線番号を入力します。
- ✓ [他の通話への参加]と[他のユーザーから通話への参加]項目は、会議通話の制限を設定したり、通話をモニタリングするために使用できます。
 - ✓ テレビ会議通話中に使用できるコマンドについては、「クイックリファレンスチャート」を参照してください。

2.10.1. 通話のモニタリング例

次の例では、ユーザーが通話中にスーパーバイザがコールに参加したときに各パーティに何が起るかを示しています。

- 1) ユーザーAとBが通話中。
 - 2) ユーザーCが、9 * <Aのユーザー内線番号>を押して、スーパーバイザーとして会話に参加します。
 - 3) ここでユーザーAが通話を保留、または転送を行なったとします。
 - 4) この時、ユーザーBは保留中の音楽を聴き、ユーザーAとCは同じ音声を聞き、同じ制御権(コールを転送するなど)を持ちます。
- ✓ ユーザーAがコールを終了すると、Cのモニター用のセッションも終了します。

2.10.2. オートモニタリング

次の例は、スーパーバイザが[オートモニタリング*]機能を使用して監視するコールに自動的に参加したときに、コール中に各パーティに何が起るかを示しています。

- 1) 内線番号Aの[オートモニタリング*]フィールドにCの内線番号を指定します。
- 2) ユーザーBがA(またはAがBを呼び出す)を呼び出します。
- 3) ユーザーCの電話が鳴ります。
- 4) ユーザーCはAとBの間の会話内で話すことができ、CはAと同じ制御を持ち、通話の転送、録音のなどが可能です。

2.10.3. チューターモード

チューターモードはコール監督の特別なモードです。スーパーバイザーがチューターモードで会話に参加すると、監督されている内線番号のユーザ側でのみスーパーバイザーの音声を聞くことができます。また、監督者は会話に参加しているすべてのユーザーの音声を聞くことができます。

チューターモードを使用するには、2つの方法があります。

- ◆ 99 * <ユーザーの内線番号>をダイヤルする。
- ◆ 特定のユーザーに対して、自動的にチューターモードで監督する場合は、監督される側のユーザー内線番号の[オートモニタリング*]フィールドに、"~~<スーパーバイザーの内線番号>"または"<スーパーバイザーの内線番号>{tutor}"のように内線番号の前に2つのチルダを入力するか、内線番号の後に{tutor}の文字列を入力します。(例:1000{tutor})

2.11. 通話録音

通話録音機能のオプションは、Brekeke PBX Admintool でユーザー毎に設定できます。システム管理者は、Brekeke PBX Admintool の各ユーザー設定画面内の[通話録音]項目においてデフォルトの通話録音状態をオン/オフに設定できます。記録された通話メッセージと留守番電話メッセージの合計数は、[オプション]メニューの[メッセージ数上限 (省略した場合=900)]項目で設定した数を超えることはできません。録音されたメッセージは、内線番号の[留守番電話]と同じ場所に保存することも、ユーザの[コールログ]に保存することもできます。

2.11.1. 通話中の録音

通話中に録音を開始するには、#6 をダイヤルします。録音を停止するには、#6 をもう一度ダイヤルします。通話録音が始まるとビープ音が鳴り、止まると音が鳴ります。ビープ音は相手には聞こえません。

2.11.2. モニター中の通話（または会議内容）の録音

誰かの会話をモニター（監督）しているとき、または電話会議に参加しているときは、#6 をダイヤルして録音を開始できますが、あなたとあなたに監督されている人だけがビープ音を聞くことができます。

2.11.3. 発信時の録音オプション

発信時に通話記録オプションを指定することができます。Record = on にする場合は 6 * <相手先内線番号>をダイヤルし、Record = off にする場合は 60 * <相手先内線番号>をダイヤルします。パーク中の通話に回答するとき、通話をモニタリングするとき、または会議に参加する時などはそれぞれ 8 *、9 *、0 *、*、**に続いて、"6*"または"60*"の録音オプションを入力することができます。

2.11.4. 通話録音パターン

[録音パターン*]の設定で、Brekeke PBX ユーザーは特定の内線番号との会話のみ録音するよう制限できます。たとえば、このフィールドに 1 *を入力すると、接頭辞 1 の番号への発信通話または接頭辞 1 からの着信通話のみが録音されます。

2.12. ミュート

会議通話または 1 対 1 通話中にミュート機能を使用できます。Brekeke PBX ミュート機能を使用すると、会話で誰がミュートされるかを設定できます。

2.12.1. 着信側のミュート

この機能は、コールを受信して会議通話に参加したユーザーをミュートし、「聞くだけ」にします。

- ◆ #7 をダイヤルして会議通話に参加させると、新しい出席者は会議の会話だけを聞くことができます。
- ◆ ユーザー設定の[着信設定]> [他の転送先*]に“(チルダ)<内線番号>”が設定されている場合、その内線ユーザーの通話は「ミュート」モードになります。会議のすべてのメンバーに対して“(チルダ)<内線番号>”を設定することで、片方向ブロードキャスト会議を作成できます

2.12.2. 発信側のミュート

この機能は、会話中に自分の電話をミュートするために使用します。

- ◆ “7 * <内線番号>”または“(8 *または 9 *または 0 *または*または**)+ 7 * <内線番号>”をダイヤルすると、その会話で自分自身をミュートすることができます。
- ◆ “9 * 7 * <内線番号>”をダイヤルすると、相手の電話を黙って監視(監督)できます。

2.13. 一斉放送(ブロードキャスト)

Brekeke PBX のブロードキャスト機能を使用すると、複数の内線番号に「聞くだけのみ」のブロードキャストモードで会議通話を送信することができます。会議のホスト側によって通話が終了すると、出席者の通話も切断されます。

- ◆ 会議の内線番号の[召集番号*]フィールドに“(チルダ)<ブロードキャスト番号>”を設定し、[ホスト切断時に終了する]フィールドで「はい」を選択すると、この会議番号にダイヤルすると、「ブロードキャスト」モードで使用できます。
- ◆ 会議の内線番号の[召集番号*]フィールドに<ブロードキャスト番号>を設定し、[一斉放送]および[ホスト切断時に終了する]フィールドで「はい」を選択して、この会議番号にダイヤルすると、「ブロードキャスト」モードで使用できます。

2.14. コンファームコール (Confirm Call)

コンファームコールは、発信したコールが着信側において留守番電話ではなく、実際の人によって応答されるようにするための機能です。着信者は、システム管理者があらかじめ設定した確認キーを押して、その人が電話に応答したことを証明するように求められます。設定の詳細については、「Brekeke PBX 管理者ガイド(基本編)」を参照してください。

2.14.1. コンファームコールへの応答

この例では、PSTN 電話機が Brekeke PBX からのコンファームコールを受信した際の応答を説明しています。

- 1) アウトバウンドコール用の ARS ルールを使用してコンファームコールを設定します。
- 2) ユーザ内線番号から ARS ルールを使用して PSTN 電話番号にダイヤルします。
- 3) PSTN 電話機がコンファームコールを受信すると、処理方法には次の 3 つのシナリオが考えられます。
 - コールに応答すると音声再生されますので、プリセット確認キーを入力します。確認キーが受け入れられると、通話が接続されます。
 - 確認キーが入力されていない場合は、音声プロンプトの後にコールが切断されます。
 - 電話に応答しないと、呼び出し音がタイムアウトした後で通話が切断されます。発信者は PSTN 電話の留守番電話には接続されません。

2.15. ページング (自動応答)

ページングは自動応答とも呼ばれます。Brekeke PBX は、SIP 電話のページング機能呼び出すことができます。電話機は、Brekeke PBX から SIP ヘッダーで送信されたページング情報を受信すると、受話器をオフフック状態にすることなく着信コールに自動的に応答します。

ページングを使用して電話をかけるには、次のいずれかのオプションを使用します。

- ◆ 22 * <ユーザーの内線番号>をダイヤルします。
- ◆ 特定のユーザの内線番号を自動的にページするには、その内線番号の[着信設定]ページにおいて、使用する端末の右端にある[自動応答]チェックボックスにチェックを入れます。
- ✓ ページングで使用されるその他のパラメータについては、「パラメータと構文」セクションを参照してください。

2.15.1. 自動ページング

- 1) ユーザー内線番号 101 の[着信設定] > [転送] > [端末]セクションにおいて、端末 1 – 端末 4 のうち、自動応答に使用する端末の[自動応答]チェックボックスにチェックを入れます。
- 2) 他の内線から内線番号 101 をコールします。
- 3) 内線番号 101 の電話機のうち、ページングをサポートしているものはなることなく通話に接続さ

れます。

2.16. ビジーランプフィールド (BLF)

ビジーランプフィールド (BLF) を使用すると、監視対象の電話機にコールがあると、監視対象の電話機に対応するキーランプが点滅し、監視元の電話機からコールをピックアップできます。

2.17. プレゼンス (Presence)

Brekeke PBX は、電話機からのプレゼンス²のための SUBSCRIBE リクエストを処理し、監視対象の電話機のステータス(「使用可能」や「電話機」など)に関する NOTIFY 応答を返すことができます。

2.18. シェアードコールアピアランス (Shared Call Appearance)

Brekeke PBX ユーザは、シェアードコールアピアランス (SCA²) を使用して、ARS ルート回線のステータスを監視したり、使用可能な回線を選択してアウトバウンドコールを発信したり、着信コールに応答することができます。

3. ユーザー設定

以下のセクションでは、個々のユーザーについてパフォーマンスと利便性を最適化するため、ユーザー設定を変更する方法について説明します。

3.1. 設定

3.1.1. 通話設定

項目	デフォルト値	説明
クラス	Class 1	ユーザーのクラスタイプ
コールピックアップグループ		グループ番号を割り当てることにより、このグループ内線番号のワンタッチコールピックアップを有効にします。
通話録音	しない	通話録音を有効/無効にします
録音パターン*	*	通話録音を有効にするために必要な着信/発信コールをフィルタリングするために使用されるワイルドカードを設定します。 メタ文字のマッチングには、星印(*)と疑問符(?)を使用できます。 複数のエントリを入力する場合は、カン

		マを使用して各内線番号を区切ります。
他の通話への参加	許可	このユーザーが他のユーザーの会話に参加することを許可/禁止します。 オプション: 許可/禁止
他のユーザーから通話への参加	許可	他のユーザーがこのユーザーの会話に参加することを許可/禁止します。 オプション: 許可/禁止
オートモニタリング*		他のユーザーがこのユーザーの会話を「モニター」できるようにします。 複数のエントリの場合は、カンマを使用して各番号を区切ります。
同時着信セッション数	無制限	最大同時セッション数 オプション: 無制限, 0-6
リソースマップ		クライアントのパラメータをBrekeke PBXパラメータにマップします。

✓ この設定セクションは、デフォルトでは各ユーザーからのアクセスは無効になっています。

3.1.2. 留守番電話設定

項目	デフォルト値	説明
PIN 番号		留守番電話を聞く際に入力する PIN 番号を設定します。
PIN 番号(確認)		留守番電話を聞く際に入力する PIN 番号を設定します。(再度)
転送先* (0-4)		
応答メッセージ	システム応答メッセージ	Specifies the greeting message that will be used with your voicemail inbox. 留守番電話受信ボックスで使用する応答メッセージを指定します。 オプション: システム応答メッセージ パーソナル応答メッセージ オプションナル応答メッセージ
メッセージ数上限 (省略した場合=900)		留守番電話受信ボックスに保存されるメッセージ数の上限
メッセージ録音時間(秒) (省略した場合=600)		音声メッセージを録音する時間の長さ (秒単位)。
録音しない		このボックスをオンにすると、応答メッセージの音声プロンプトだけが再生され、発信者は留守番電話に音声メッセージ

		を残すことができません。 オプション: チェック/チェック解除
未保存メッセージの保存日数 (省略した場合=30)		明示的に保存設定していない音声メッセージの保存日数。
メッセージ転送*		留守番電話に残された音声メッセージを転送する Brekeke PBX ユーザの内線番号。 この設定を使用すると、すべての音声メッセージがここで指定された番号に自動的に転送されます。 複数のエントリの場合は、カンマを使用して各番号を区切ります。
E メールアドレス*		音声メッセージが留守番電話に残された際に通知するメールアドレスを指定します。 複数のエントリの場合は、カンマを使用して各メールアドレスを区切ります。
E メール通知	しない	新しい音声メッセージが留守番電話に残された時に指定されたアドレスに通知する機能を有効または無効にします。
E メール音声ファイル添付	しない	音声メッセージを E メールに添付するかどうかを設定します。
発信者番号読み上げ	する	留守番電話に音声メッセージを残した発信者の番号の読み上げを行うか、行わないかを設定します。
自端末の場合はパスワード省略	しない	ユーザーの[端末設定]ページにセットされている端末から留守番電話受信ボックスにアクセスするときに、パスワードを要求するかしないかを設定。

3.1.3. 音声ファイル

Name	Description
名前	留守番電話受信トレイに関連付けられた名前。(別の Brekeke PBX ユーザーにメッセージを残すと、受信者には「xxxx からの新しいメッセージがあります」というメッセージが聞こえます)
保留音	保留中に発信者が聴く音楽の音声ファイル。
留守番電話パーソナル応答メッセージ	ユーザーが作成した、留守番電話で使用される応答メッセージ。
留守番電話オプション応答メッセージ	ユーザーが作成した、留守番電話で使用される応答メッセージ。
音声ファイルのダウンロード	アップロードした音声ファイルをダウンロードするには各音声ファイルのファイルサイズをクリックしてください。
Delete	アップロードしたファイルを削除したい場合、[Delete]チェックボックスにチェックを入れてください。その後[保存]ボタンをクリックすると削

	除されます。
Choose File	音声ファイルをアップロードするために、[Choose File] ボタンを押して、アップロードしたいファイルを選択してください。その後保存ボタンをクリックするとアップロードが開始されます。

3.1.4. 音声ファイルのフォーマット

アップロードする音声ファイルは、以下のフォーマットで作成してください。

フォーマット	WAV
サンプリングレート	8000Hz
ビット数	16-bit
チャンネル	Mono

3.2. 端末設定

[端末設定]ページでは、各 Brekeke PBX ユーザーに最大 4 つの端末を割り当てることができます。

項目	デフォルト値	説明
端末 ID	<内線番号> or <テナント名_内線番号 > (マルチテナント版の場合)	Brekeke PBX にバンドルされた Brekeke SIP Server にレジスターされている SIP ユーザーID を入力。または PSTN 番号を入力。
タイプ	Type 1	デフォルトの端末タイプまたはシステム管理者が定義した端末タイプ。割り当てられた各端末のコーデック、オーディオ/ビデオ、または RTP リレー機能を正しく使用するために、適切な端末タイプを選択します。

3.3. 着信設定

3.3.1. プラン

Name	Description
プラン 選択リストボックス	作成したプランの中から選択します。 デフォルト:プラン 1 (アクティブ)
アクティブにする	プランを選択後、このボタンをクリックしてそのプランをアクティブに設定します。 アクティブなプランは、ユーザーの電話から[プラン切替]内線番号をダイヤルすることによっても変更できます。
↓	現在のプランのすぐ下にあるプランに表示を切り替えます。
↑	現在のプランのすぐ上にあるプランに表示を切り替えます。

新規プラン追加	新規にプランを追加。
このプランを削除	現在選択されているプランを削除します。
転送スケジュールを追加	このプランに新たに転送スケジュールを追加します。
保存	現在のプランの設定を保存します。

3.3.2. プラン [n] > デフォルト転送スケジュール > 転送

端末

項目	デフォルト値	説明
チェックボックス	全て選択	着信があった際、ここで選択されている端末がすべて呼び出されます。
端末 [1-4]	<extensionID> or <tenant_extensionID> (Multi-Tenant PBX)	ユーザーの[端末設定]ページに設定されている電話番号と同じ電話番号。チェックボックスをオンにすると、着信コールが選択した番号に転送されます。チェックボックスをオフにすると、電話は着信コールを受信しません。 オプション:チェック/アンチェック
呼び出し時間(秒)		着信時、電話が鳴る時間の長さ。指定した時間になると、[転送先]> [転送先(不応答)]で設定した内線番号に着信が転送されます。 各端末の[呼び出し時間(秒)]項目の設定がない場合、[転送先]> [呼び出し時間(秒)]の設定が適用されます。
遅延 (sec)		設定された電話機にコールが着信するまでの遅延時間。
自動応答		自動応答機能を使用する場合、チェックボックスをチェックします。

転送先

項目	デフォルト値	説明
他の転送先*		[端末]セクションで選択した端末に加えて、着信を転送する番号。 着信がはいると[端末]セクションで設定された番号だけでなく、このフィールドに設定されている番号も呼び出します。 複数のエントリを入力する場合は、カンマを使用して各番号を区切ります。

呼びだし時間 (秒)	90	<p>[他の転送先*]項目に設定された番号または端末セクションで割り当てた端末が呼び出される時間の長さ。 指定した時間になると、着信は[転送先(不応答)]で設定された宛先に転送されます。</p> <p>この設定は、次の場合に有効になります。 ・[端末]セクションの[呼び出し時間(秒)]が未設定。 ・[他の転送先*]に設定がある場合。</p>
転送先 (話中) Voicemail box	留守番電話受信ボックス チェック	<p>着信先が話中(ビジー)のためコールが転送される宛先。</p> <p>このボックスにチェックが入っていると、その通話は自動的にユーザーの留守番電話受信ボックスに転送されます。</p> <p>オプション:チェック/アンチェック</p>
転送先 (不応答) Voicemail box	留守番電話受信ボックス チェック	<p>未応答のコールが転送される宛先。</p> <p>このボックスにチェックが入っていると、その通話は自動的にユーザーの留守番電話受信ボックスに転送されます。</p> <p>オプション:チェック/アンチェック</p>

3.3.3. プラン[n] > デフォルト転送スケジュール > オプション

コールウェイティング / ノックノック

項目	デフォルト値	説明
着信時にピープ音を鳴らす	いいえ	<p>ユーザーが通話中に着信があった場合に通知音を鳴らす(はい)か無効にする(いいえ)。</p> <p>オプション:はい/いいえ</p>
ノックノック 内線からの通話のみ	0 checked	<p>コールウェイティングの音声メッセージを発信者に再生する時間。</p> <p>オンにすると、この設定は他の Brekeke PBX ユーザからの着信コールにのみ適用されます。それ以外の場合、この設定はすべての着信コールに適用されます。</p> <p>オプション:チェック/アンチェック</p>

フォローミー

項目	デフォルト値	説明
呼びだしが終了したら、次の端末を呼び出す	いいえ	「はい」に設定すると、[遅延]設定を無視して、直前の端末の呼び出し音が止まるとすぐに、次に割り当てられた端末が鳴り始めます。

3.3.4. プラン[n] > 転送スケジュール[m] > 条件

フィルター

項目	デフォルト値	説明
発信元	マッチする	着信コールをフィルタリングするために使用されるワイルドカード設定。 スター(*)は 0 文字以上を意味し、疑問符(?)は 1 文字を意味します。 番号の後に*(ワイルドカード)を追加することで、その番号で始まるすべての番号を指定できます。 フィールドを空白のままにすると、すべての数値がスケジュールに適用されます。 オプション: マッチする/マッチしない
ルート	全てのルート	すべてのルートからの着信コール、または外部ルートからのコールに転送スケジュールを適用します(またはしない)。 オプション: 全てのルート 外線ルート 外線ルート以外
タグ		コールに追加されたタグ情報を、フィルター条件の一部として使用できます(v3.4以降)。

日時

項目	デフォルト値	説明
期間		転送スケジュールの開始日と終了日を設定します。
日付		転送スケジュールを適用する週(第1週 - 第5週)とその曜日にチェックを入れます。

時間		転送スケジュールを適用時間の範囲を指定します。
----	--	-------------------------

3.3.5. 転送スケジュール [n] > 各ボタン

項目	説明
転送スケジュールを追加	新規に転送スケジュールを作成します。
Copy	現在の転送スケジュールをコピーします。
Delete	現在の転送スケジュールを削除します。
Up	一つ上に現在の転送スケジュールが移動します。
Down	一つ下に現在の転送スケジュールが移動します。

3.3.6. Timer 1 / Timer 2

項目	デフォルト値	説明
期間		タイマーの作動する開始日と終了日を設定します。
日付		タイマーの作動する週 (第1週 - 第5週)とその曜日にチェックを入れます。
時間		設定したプランをアクティブにする時間をセットします。

3.4. 留守番電話

項目	説明
メッセージ	リストに右上に新規メッセージおよび保存されたメッセージの数が表示されます。
削除	録音されたメッセージを削除するには、該当のメッセージのチェックボックスにチェックを入れ、リスト上部の[削除] ボタンをクリックします。
日時	メッセージが残された日時が表示されます。
ステータス	メッセージのステータス(新規/保存)。
相手番号	発信者の情報。

タイプ	メッセージのタイプ (留守番電話/通話録音)。
サイズ (バイト)	メッセージのサイズ。
再生/ダウンロード	メッセージの再生またはローカル PC に音声ファイルをダウンロードします。

3.5. コールステータス

項目	説明
トータル	システム内でアクティブなセッションの合計数。
ID	Call ID。
ステータス	コールステータス: In progress, Talking。
端末	そのセッションのユーザの電話番号。

3.6. コールログ

項目	説明
日時	特定の日時のコールを表示させる際に選択します。
開始時間	選択した時間以降のコールログを表示します。
表示件数	一画面に表示するログの最大件数。
表示	コールログをを再表示します。
CSV	CSV ファイルとしてコールログをエクスポートします。

コールログ履歴

項目	説明
ARS	コールに適用された ARS ルートの名前。
タイプ	コールの種類。
URI(端末)	コールに紐づいたユーザー端末の SIP URI。

URI(PBX)	コールに紐づいた相手側の SIP URI。
通話開始時間	通話が開始された時刻。
通話時間	通話時間。

3.7. ノート

ユーザーの権限で参照または編集できるノートの一覧が表示されます。

項目	説明
名前	ノートの名前。 クリックするとノートの詳細が表示されます。
説明	ノートの説明。
ユーザーアクセスレベル	ノートへのユーザアクセスレベル(編集禁止 or 編集許可)。

3.8. 電話帳 (Brekeke PBX v3.8.x 以降)

フィルタ

項目	説明
テキスト	任意のテキストで電話帳内のエンTRIESを検索します。
電話帳	検索対象とする電話帳を指定します。
表示件数	検索結果の最大表示件数。

検索結果

項目	説明
コンタクト	コンタクト先の氏名が表示されます。各エンTRIESの氏名をクリックすると詳細画面に遷移します。
電話帳	コンタクトが含まれる電話帳が表示されます。
削除	対象となるコンタクトエンTRIESの左端にあるチェックボックスにチェックを入れて、削除ボタンをクリックすると、対象のエンTRIESが削除されます。(一般ユーザーはデフォルトでは共有電話帳に対しては削除権限はありません。)
新規コンタクト	クリックすると新規コンタクト入力画面に遷移します。

コンタクト新規入力/編集画面

項目	説明
電話帳	コンタクト先を追加する電話帳を選択または新規に作成します。
姓	姓を入力します。
姓(フリガナ)	姓(フリガナ)を入力します。
名	名を入力します。
名(フリガナ)	名(フリガナ)を入力します。
会社	会社名を入力します。
自宅	自宅電話番号を入力します。
発信	入力後[発信]ボタンが有効になり、この番号へ発信可能となります。
勤務先	勤務先電話番号を入力します。
発信	入力後[発信]ボタンが有効になり、この番号へ発信可能となります。
携帯	携帯電話番号を入力します。
発信	入力後[発信]ボタンが有効になり、この番号へ発信可能となります。
メール	メールアドレスを入力します。
住所	住所を入力します。
メモ	メモを入力します。
項目を追加	その他の項目を追加または新規に作成できます。

インポート/エクスポート

項目	説明
インポート コンタクト	
電話帳	インポート先の電話帳を指定します。
区切り文字	インポートファイルの項目の区切り文字を指定します。
電話帳のコンタクトを全て削除する	インポート時に電話帳内の既存のコンタクトをすべて削除する場合はチェックを入れます。
CSV ファイル	インポートする CSV ファイルを選択します。

エクスポート コンタクト	
電話帳	エクスポートする電話帳を指定します。
区切り文字	エクスポートファイル内の各項目の区切り文字を指定します。

3.9. アカウント

項目	デフォルト値	説明
名前		ユーザーの表示名。 設定は任意です。
説明		ユーザーの説明 設定は任意です。
言語	このユーザーを作成した ユーザーの言語設定を引 き継ぎます。	選択した言語は、ユーザーの Web Admin tool 画面および留守番電話のプ ロンプトに使用されます。 オプション: 英語/日本語
ログインパスワード		Brekeke PBX の Web Admin tool 画面 にログインするために必要なパスワード です。
ログインパスワード (確認)		パスワードの確認のため再度入力しま す。

4. クイックリファレンス

4.1. 発信時におけるコールタイプの指定

4.1.1. 発信時のプリフィックス

プリフィックス	説明
8*	パーク中の通話のピックアップ。
9*	スーパーバイズ(モニタリング)モード。
99*	チューターモード。
22*	自動応答(ページング)。
0*	会話中の通話に参加(会議モード)。
*	コールピックアップ。
**	パーク/転送する前の状態に戻す。

- ✓ この発信時のプリフィックスは、必ずダイヤルする番号の先頭に指定する必要があります。発信時のプリフィックスを複数、コンビネーションで指定することはできません。

4.1.2. コールの属性

属性番号	説明
6*	録音あり。
60*	録音なし。
7*	ミュート(聞くだけ)モード。

- ✓ コールの属性は複数、コンビネーションで指定できます。
例) 9*6*7*<相手の番号>
例) 60*<相手の番号>

4.2. 通話中のコマンド

プリフィックス	説明
#6	録音の開始/停止。
#9	保留。
*	保留から通話に戻る。
#8	コールパーク。
#0	相手を会議に参加させる(転送先との通話中)。
#7	ミュート(聞くだけ)モードで相手を会議に参加させる(転送先との通話中)。

4.3. ビデオ会議中に使用するコマンド

プリフィックス	説明
#5	ビデオ制御モードの開始。
1	他の出席者にあなたが見ている映像を見せる。
2	他の出席者にあなたを見せる。
4	次のビューに移動。
6	直前のビューに戻る。
*	ビデオ制御モードの終了。

4.4. パラメーターと構文

4.4.1. パラメーター

文字パラメーター	説明
page / p	ページング関数。
mic-off / m	マイクを Off にします。ユーザーは話すことができません。
speaker-off / s	スピーカーを OFF にします。ユーザーは聞くことができません。
tutor / t	チューターモード。

シンボルパラメーター	説明
~	ユーザーは話すことができません。聞くことのみ。
^	ユーザーは聞くことができません。話すことのみ。
~~	チューターモード。

4.4.2. 構文

- ◆ 文字パラメータは、{and}のように中括弧で囲む必要があります。
- ◆ 複数の文字パラメータが同じ中括弧で囲まれている場合は、セミコロン(;)で区切ります。
例:{p;m}は自動応答(ページング)をオンにし、マイクをオフにすることを意味します。
- ◆ 文字パラメータの前に<内線番号>を指定します。
例:400{p; s}は、ページングをオンにし、内線番号 400 の電話のスピーカーをオフにすることを意味します。
- ◆ シンボルパラメータ~, ^,~~は、<内線番号>の前に設定されています。
例: ~<extension number>